

## 防風・防潮効果に優れたテリハボクの育種共同研究について ～地球温暖化に伴う気候変動への対応～

### 1 概要

森林総合研究所林木育種センターでは、気候変動に対応する取り組みの一環として、

- ①海岸林として防風・防潮効果に優れ、暴風や高潮・津波などの被害を軽減
- ②良質の精油（種子）や材を生産し地域住民の生活向上に資する

等の特長をもつテリハボク<sup>1</sup>の優良品種の開発に向けて台湾林業試験所及び太平洋共同体事務局（SPC）<sup>2</sup>との国際共同研究を2011年から実施中。



石垣島のテリハボク防風林



海岸に自生するテリハボク



テリハボクの花



テリハボクの種子

<sup>1</sup> テリハボク (*Calophyllum inophyllum*) : オトギリソウ科の常緑性高木。熱帯アジア・ポリネシア・マダガスカルに分布。ふつう海岸林を形成し、塩分と強風によく耐える。そのため小笠原・琉球などでは防潮林、防風林に利用される。材はかたく建築・家具材などとなり、種子油は樹脂質でリウマチの外用薬などとして利用される。（日本の野生植物 木本Ⅰ、平凡社、1989）

<sup>2</sup> 太平洋共同体事務局 (Secretariat of the Pacific community) : 自然資源分野、人間・社会開発分野、気候変動等横断的な共通分野など、20 項目以上の分野で活動する共同体。26 太平洋島嶼国・地域で構成。本部はニューカレドニアのヌメア。(Secretariat of the Pacific community, Jan. 2015 )

## 2 これまでの主な取り組み

### ① 林木育種等の取組

日本、SPC（フィジー）それぞれの地域における優良系統の選抜・育種を開始するとともに、気候変動に伴う環境応答性を検証するための広域的な産地試験を設定。これまでに初期成長の家系間差等を明らかにしている。

### ② テリハボクの遺伝変異の解析と技術支援

日本、台湾、南太平洋域のテリハボクの遺伝資源評価（遺伝的多様性や変異）を解析・一部公表するとともに、SPCにおけるDNA解析の技術支援（研修）を実施。

### ③ 人的交流

森林総合研究所林木育種センターから毎年、SPCに短期専門家を派遣。

2013年3月に太平洋共同体事務局コーディネーターのブライ氏が来日し講演。

2013年9月にSPCとフィジー森林局が開催した「太平洋地域林業技術会議」に森林総合研究所林木育種センターも参加し、本件共同研究について発表。

2015年7月にFAOとSPC等がフィジーで開催した「太平洋地域の森林と自然災害に関するワークショップ」に参加。

## 3 今後の展開

優良系統の選抜と海岸防風林等への活用に向けて、引き続き共同研究を推進する。

**【関連写真】**



SPC との MOU 調印



SPC ブライ氏林木育種センター来訪



苗木成長比較(播種後8ヶ月)  
(左:フィジー産、右:西表島産)



産地試験 (西表熱帯林育種技術園)



産地試験 (砂丘地、フィジー)



産地試験 (フィジー)



「太平洋地域林業技術会議」に  
おける発表 (フィジー)



DNA 分析研修 (SPC、フィジー)



ピュアフィジー (テラホク精油製品)